

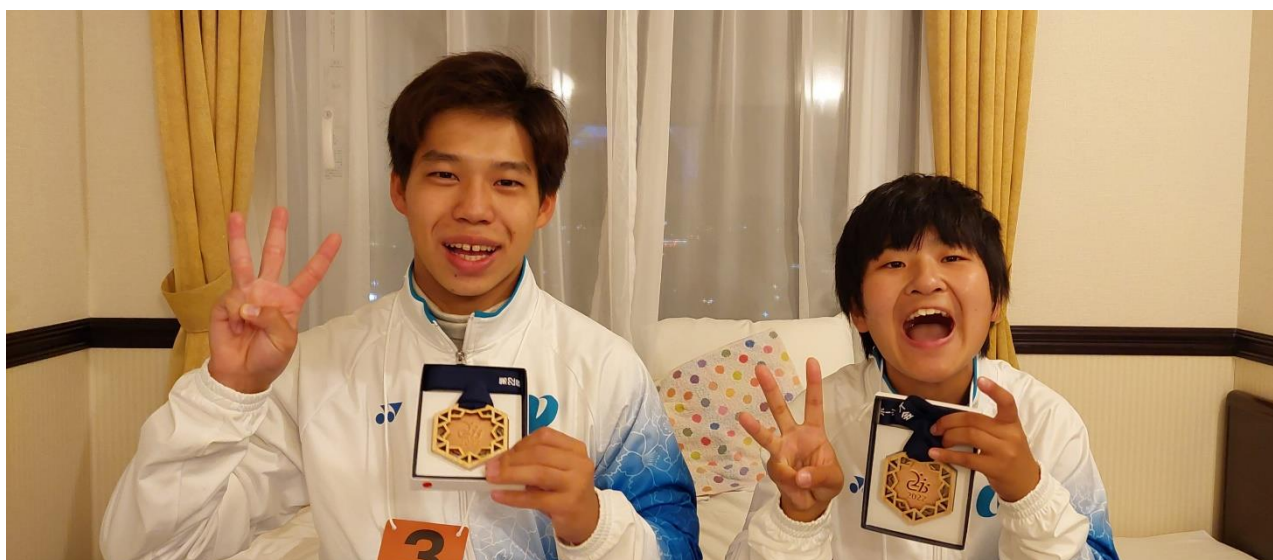


いちご一会とちぎ大会

第22回 全国障害者スポーツ大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022

島特高等部生徒 メダルラッシュ!!!!

2022年10月29日(土)～31日(月)、栃木県で開かれた第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」に、本校高等部から喜多海舟選手(3年)、村川愛子選手(3年)が出場し、合計4個のメダルを獲得する大活躍を見せてくれました。



メダルを獲得し、笑顔を見せる喜多選手(左)と村川選手(右)

水泳競技に出場した喜多選手は、25mバタフライで3位(銅メダル)、50mバタフライでは4位と大健闘。陸上競技に出場した村川選手は、100m、200mともに3位(銅メダル)、男女混合で行われた4×100mリレーでは、長崎県チームの第1走者として金メダル獲得に貢献しました。

2人の成績は以下のとおりです。

氏名	競技	種目	障害区分	年齢区分	記録	順位	備考
喜多 海舟	水泳	25mバタフライ	26	少年	13秒99	3位	銅メダル
		50mバタフライ	26	少年	31秒54	4位	
村川 愛子	陸上	100m	27	少年	14秒70	3位	銅メダル
		200m	27	少年	31秒90	3位	銅メダル
		4×100mリレー			47秒45	1位	金メダル

学校では、2人とも陸上競技部に所属し、毎日厳しい練習に取り組んでいます。

喜多選手は、部活動が終わった後、スイミングクラブで毎日水泳の練習に励んできました。各種全国大会の出場経験もあり実績十分の選手。村川選手は、休日に行われた県の強化練習会に積極的に参加。スタートの動作やバトンパスを繰り返し確認し、本番に向け技術を高めてきました。

「努力はきっと報われる」

その言葉を全国の舞台で見事に体現した喜多選手と村川選手。大会後、学校で開かれた伝達表彰式で2人が見せた表情と語った言葉は、金メダル以上の輝きを放っていました。



2人の活躍は、長崎新聞でも紹介されました。



知的少年男子50バタ 喜多4位

○：実力者が集まったこの日の水泳最終種目、知的少年男子50バタフライ(区分26)。18歳の喜多(島原特支)は、このハイルなレースで4位と健闘した。29日の25バタフライは3位だっただけに「悔しい」と顔をゆがめたが、出場者6人で接戦を演じてクワイマックスを盛り上げた。

島原三小、島原二中の出身。健将と同じ私立の高校に進むという選択もあったが「自分のペースで勉強したい」と特支へ。3年生になった今は、県内就学を希望して活動中だ。

小学3年時に母親の影響で始めた水泳。中学3年時に知的障害者大会「クリコチャレンジスイム」で2位に入ると、前半型で、この日もこのターンまでは又々ル争いを展開。今後の活躍が期待される逸材だが、当の本人は「楽しく水泳を続けられたらいい」といって自然体だった。

(中島健)

2022年10月31日付 長崎新聞



知的男女共通400リレー 有終の金 白木は3冠達成

【陸上】
 陸上知的男女共通400リレー(区分27)で、長崎の第3走者の西山(祐里会姉川病院)からアンカー白木(希望が丘高等特支)にトップでバトンリレー。

最終種目を金メダルで締めくくった。陸上知的男女共通400リレー(区分27)で長崎チームが有終のトップゴール。短距離2種目の大会新Vと合わせて3冠に輝いた。

【陸上】
 陸上知的男女共通400リレー(区分27)で、長崎の第3走者の西山(祐里会姉川病院)からアンカー白木(希望が丘高等特支)にトップでバトンリレー。

4人全員が10代の若いチーム。学校の職場は専ら、優勝を目指して夏からバトン練習を繰り返して、メンバー間の絆も深めてきた。この日マークした47秒45は今まで一番いい記録。心のバトンをつないで、若い力が大会ローガン「夢を感動、感動を未来へ。」を体現した。

(中島健)

2022年11月1日付 長崎新聞

【陸上知的男女共通400リレー(区分27)】長崎の第3走者の西山(祐里会姉川病院)からアンカー白木(希望が丘高等特支)にトップでバトンリレー

【陸上】
 陸上知的男女共通400リレー(区分27)で、長崎の第3走者の西山(祐里会姉川病院)からアンカー白木(希望が丘高等特支)にトップでバトンリレー。

【陸上】
 陸上知的男女共通400リレー(区分27)で、長崎の第3走者の西山(祐里会姉川病院)からアンカー白木(希望が丘高等特支)にトップでバトンリレー。

【陸上】
 陸上知的男女共通400リレー(区分27)で、長崎の第3走者の西山(祐里会姉川病院)からアンカー白木(希望が丘高等特支)にトップでバトンリレー。